

新任保育者の早期離職の可能性について —卒業生を対象とした調査から—

小川 千晴^{*,1)}

¹⁾ 聖隷クリストファー大学

【研究目的】

近年、幼稚園や保育所では3年以内での早期離職が問題のひとつとして挙げられている。本学部こども教育福祉学科では、2期生までが卒業し専門職として働いている。近況報告で大学を訪れる卒業生の多くが、職場での悩みを話し、早期離職につながりかねないことが予測される。本研究は、卒業生を対象として、現在の職業に関する意識調査をし、実態を把握することで、早期離職を防ぐために養成校としてどのような支援が必要であるのかを考察するものである。

【研究方法】

卒業生の意識調査を通して、早期離職の要因を分析し、養成校における卒後支援のある方についてまとめるための研究方法として、無記名による質問紙調査を実施する。調査対象は、本学社会福祉学部こども教育福祉学科の卒業生とする。調査期間は2013年11月～2014年3月とし、来学した卒業生に研究の主旨ならびに研究への協力について、口頭および文書にて説明と依頼を行い、研究の協力を得る。同意の得られた協力者に、その場で質問用紙に回答を記入してもらい、回収をした。回収された調査票は、Excelによる統計的検定にて分析を行った。なお、本調査は、本学倫理委員会の審査にて承認を得て(認証番号13043)実施した。

【結果および考察】

質問紙調査において、来学した卒業生6名の協力を得ることができた。勤務先は保育所が5名、認定こども園が1名であり、基礎資格となるのは、全員保育士であった。勤務形態に関する質問項目において、1日あたりの労働時間は、平均9時間程度であった。また、勤務時間以外での労働時間は、「記録を作成するためにかけた時間」、「教材などを作成するためにかけた時間」を挙げる回答者が多かった。職業に関する意識に関する項目において、職業を選んだ理由(複数回答)として、「子どものときからの夢であった」と全員が回答しており、「やりがいのある仕事だと思った」、「資格を生かしたかった」の回答があった。また、仕事へのやりがいについては、「よく感じる」、「時々感じる」と全員が回答し、「どのような時に感じるのか」では、「子どもとの信頼関係が深まったとき」と全員が回答し、他に「子どもの成長が感じられたとき」、「子どもへの理解が深まったとき」と担当する子どもに関する質問項目に回答が集中していた。自らの夢を叶え、仕事をするのにやりがいを感じていること、大学での学びでは得ることができなかった実践における子どもとの関わりを日々しているため、子どもに関する内容が当てはまるのではないかと考える。一方で、仕事をやめたいと思ったことがあるとの回答もあり、理由として、「職場内での人間関係」、「自分の思ったような保育ができない」、「勤務時間が長い」といった項目を挙げていた。仕事にやりがいを感じている一方で勤務して1～2年と間もない卒業生にとって、先輩が多い職場内の人間関係に難しさを感じているようであり、来学した際にも会話の内容に挙がるものである。他の調査においても、人間関係が要因となり退職をしているとの結果が示されているため、卒業生への支援体制を大学においても検討する必要があると考える。

【学会発表、論文発表の状況】

聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要に投稿予定。